

東北の花の連峰を歩く 飯豊連峰主脈縦走

実施日	2015年7月23日(木)～26日(日)
天候	7/23 曇り・雨 7/24 雨・一時雷雨 7/25 霧・強風 7/26 霧後晴
リーダー	石原 勝正
参加者	石原勝正、濱田優美子、峯川弘子 計3名
費用	JR運賃 21,490円、タクシー 2,150円、バス700円 宿泊11,000円 合計 35,340円
タイム	7/24 登山口(5:30～7:25)横峯小屋跡(7:30～9:20)剣ヶ峰(9:20～9:55)三国小屋(10:15～11:50)種蒔山(11:53～12:25)切合小屋(泊) 7/25 切合小屋(5:35～6:05)草草履(6:08～8:25)本山小屋(8:00～8:20)飯豊山(8:25～10:05)御西小屋(9:50～13:55)烏帽子岳(14:05～15:00)梅花皮小屋(泊) 7/26 梅花皮小屋(5:35～6:00)北股岳(6:10～7:00)門内岳(7:05～7:35)扇の地紙(7:37～8:30)梶川峰(8:55～9:15)五郎清水(9:20～10:20)瀧見場(10:35～11:15)湯沢峰(11:35～13:25)飯豊山荘

7/24 登山口～切合小屋

川入地区の民宿高見台を民宿主人の送迎車で出発し5時半前に登山口到着。初日は岩峰の剣ヶ峰を越えて三国岳～切合小屋～草草履～本山小屋を目指す。

1300mの標高差を1日で登るハードなルートである。小雨模様の中でレインウェアとザックカバーを装着して出発前のフォト、5時30分にスタート。

樹林帯に入り2つの沢を徒渉した後、延々と続く登りの登山道に汗と疲れがドット出る。道端のブルーベリーの実を発見し甘酸っぱい味で疲れを癒す。その後、登山道でブユのような虫も飛び回り始め何度か顔や耳を刺され腫れ上がる。

登山口からの2時間ほどの登りでようやく横峰の小屋跡に到着し小休止と水分補給。暫くして三国岳に続く尾根に上る。次第に雨脚が強くなり剣が峰の岩場に流

れ落ちる雨の中を必死に岩場を越える。そのうち雷音が鳴り始め稲妻も光る。逃



げ場がないため岩影やハイ松の下に身を潜めて危険をやり過ごす最悪の難所越えとなる。40分程で剣ヶ峰の岩

峰を越えると雷も去り三国小屋に到着。管理人から思わぬ無料のコーヒー接待を受け大感謝。暫くの休憩の後次の切合小屋に向け出発。登山道は次のピーク種蒔山へ向かって登り次第に高度を上げる。視界は10m先の先も見えない。濃霧と雨の稜線の両側にはニッコウキスゲなどのお花畑、東側には白い雪渓が迫ってくる。時々たま現れる鎖場や梯子を越え、雪渓をトラバースして種蒔山の頂上に到達。その後やや下って緩いピークを超え



た先が切合小屋である。計画は更に2時間半先の本山小屋まで登る予定であったが、管理人とも相談し悪天候の中の稜線歩きは困難と判断し切合小屋に宿泊。明日の天気予報は朝霧のち終日雨、天候回復を祈って19時就寝。

7/25 切合小屋～梅花皮小屋

朝4時起床。霧で視界は効かないが雨は止んだ模様。西風で霧が吹き付けるため再びレインウェアとザックカバーで5時35分に出発。最初のピーク草草履、姥権現、梯子と鎖場のある御秘所という岩場を越えて御前坂の麓に着く。稜線の西側からは左から強風が吹きつけ肌に冷たいと同時にザックが右に振られるので右足で踏ん張りながら歩く。昨日は雷雨と霧と虫、今日は強風と霧に立ち向かう。晴れていれば正面には飯豊山、左右には東北の山々が見えるはずであるが、周りが全て乳白色の濃霧の世界が続く。この日最大のアルバイトを強いられるザレた

御前坂を強風に飛ばされないようにジグザグに登り、右に水場の標識を見て本山小屋に到達。山小屋管理人の薦めもあり



強風での体力の回復を図るため小屋に入り、長めの休憩タイム。小屋を出発し飯豊山まで20分程で到着、頂上で

三脚を使って記念フォトを撮るも霧と吹きつける強風のためレンズも濡れてピンボケか。飯豊山～御西岳のルートは飯豊縦走の最も美しい稜線歩きといわれているが濃霧のため展望の効かないお花畑をひたすら歩く。コバイケイソウ、秋のキリンソウ、日光キスゲなどの大群落を分けて2時間弱ほどで御西岳頂上に立つ御西小屋に到達。向かい風の強風と霧の中での体力消耗を回復するため再度小屋に入り昼食と休憩。御西小屋から左に向かえば往復3時間のピストンで飯豊連峰最

高峰の大日岳も踏破できるが、我がパーティは右の稜線を下って烏帽子岳、次の宿舎となる梅花皮小屋を目



指す。稜線の右側は静かなお花畑とその下に迫る雪渓、左側は西からの強風の稜線を交互に歩く。稜線の七森（岩場と鎖場の難所）を越えて天狗の庭に到達。その後、稜線の夏道はたびたび雪渓に阻まれ慎重に雪渓を渡る。稜線の鞍部から最後の雪渓を渡りと下からの強風に煽られて烏帽子岳の登りに入る。この頃からときどき霧がはれ周囲の展望が開ける。稜線に登ってから烏帽子岳の頂上で初めて会報のギャラリーに掲載できそうな鮮明なスナップが撮れる。烏帽子岳の下り稜線は身の危険を感じるほどの猛烈な強風で右側の谷に落とされないよう這いつくばって歩き、疲れた体を引きずって午後3時に梅花皮小屋に入る。梅花皮小屋は烏帽子岳と北俣岳のコル（石転び沢の源

頭）にあり、飯豊山荘側から石転び沢の雪渓を登ってきた30人以上の登山者で賑わっており、早めの夕食後18時頃就寝。

7/26 梅花皮小屋～飯豊山荘

4時起床、朝食後5時35分出発。稜線の天気は霧と風で昨日と同じだが強風はやや弱まり天候の回復を期待。防寒のためレインウェアで濃霧の中を登り北股岳に到着。北股岳から稜線を北上、門内岳



を通過、扇の地紙で稜線から離れ梶川尾根のお花畑を下る。この頃から濃霧が晴れはじめ、北股岳の稜線上は

雲に覆われているものの飯豊連峰山塊の展望が開ける。尾根にはお花畑、池塘などが散在する中を梶川峰に到達。お花畑の写真タイムも増えて下山もやや遅れがちとなる。梶川峰からは稜線上の雲も切れて快晴となり、今まで通過してきた梅花皮小屋、北股岳だけでなくその左奥の飯豊山の頂上と大きな山体も覗うことができる。



梅花皮小屋のコルを源頭とする石転び沢の景観も素晴らしい。飯豊連峰を展望できたのが下山日ということがやや残念な気がするがこぶし会の山行ではよくあることで



ある。「終りよければすべてよし」と自分に納得させる。

梶川峰から急な下山ルートとなる。

五郎清水の水場、石

転び沢が一望できる瀧見場、最後の登りとなる湯沢峰を越えて13時20分に飯豊山荘到着。小国駅へのバス出発時刻15時25分に約2時間の余裕をもって飯豊山荘温泉で汗を流し、待望の生ビールでグイーと喉を潤し飯豊連峰縦走の完走を祝した。

（記&写真・石原 勝正）